

◆4番（小川義昭君） 議席番号4番、市民クラブ、小川義昭です。通告に従いまして、一般質問を行います。

本日は、大勢の市民の皆様、傍聴まことにありがとうございます。

「たからとは くめどもくめども清水かな」、今回も加賀の千代女の句であります。

夏の日、山路の木陰を流れる清水、岩の間から絶えずほとぼしる清水、あるいは海浜に砂を吹き上げて、こんこんとわき出る清水。これぞ天の恵みと両手に受け、清冽な冷たい清水で肺腑を潤す爽快さは、命よみがえる思いです。かつて歩いて旅する人たちはなおさらのこと、夏の清水こそどんな金銀財宝にもかえられない宝と感じ入ったことでしょう。

早いものでもう6月半ば、1年の半分が過ぎようとしています。近づく夏の句を引用し、改めて白山市の四季の豊かさに感動しております。

私たち市議会議員も、2回目の白山市議選挙に無競争当選して4カ月が過ぎ、その第2回定例議会に臨んでいます。

去る2回目の選挙に当たって、私は市民の皆さんに5つの約束をいたしました。

1つ目は、市民が主役のまちづくり、2つ目は、安心・安全のまちづくり、3つ目は、市政を支える産業基盤の創出、4つ目は、行財政の健全化と情報の開示、そして最後の5つ目は、公正・無私、骨身を惜しまずであります。

私は、3月当初議会では、その約束の一つであります市民が主役のまちづくりに関連して、市総合計画、市都市計画マスタープランに対する、特に市民参加のあり方を重点に、質問と提言を行いました。

今議会では、その約束の2つ目に挙げた安心・安全のまちづくりに関連して、自然と共生するまちづくりを進めるための自然環境の保全について質問いたします。

質問に当たって、まず私の問題意識や現状認識について述べてみます。

先般、経済専門誌が、全国784都市を対象にした「住みよさランキング」という調査特集を発表しました。それによると、白山市のランキングは、総合12位という高い評価でしたが、財政健全化については別の機会に触れたいと考えております。

この住みよさの高ランキングの理由・背景は、子育て、医療、福祉、教育、高齢者介護、治安、防災など、各分野の現状を総合判断したものでしょう。その中でも、白山市の自然環境のよさが高ランキングに高い比重を占めていると言えます。

白山市の自然環境の保全は、既に市総合計画を初め合併による新しい白山市のまちづくりの柱に据え、実行に移しているわけですが、12位の高評価に甘んじることなく、白山市最大の価値として、さらに実効ある安心・安全のまちづくりを推進していくことが重要でしょう。

さて、白山市の地勢上の自然環境はどのようなものでしょうか。

森林面積から見てみます。石川県の森林面積は28万6,000ヘクタールで、県土の70%が森林です。うち、白山市の森林は22%の6万3,000ヘクタールを占めます。それは、白山市全部の84%に当たり、白山市はまさに森林市ということができます。

ちなみに、白山市の国有林、県有林、市有林の公有林は3万ヘクタール、県全体の公有林が5万ヘクタールですから、その56%、何と半分以上が白山市にあるのです。白山市のまちづくりの眼目は、この森林市づくりにあると言っていいでしょう。

では、森林の果たす機能・効用はどのようなものでしょうか。

まず、膨大な保水力は、洪水や渇水、山崩れなどの山地災害を防ぎ、地球温暖化や風害などの防止に貢献します。自然の防災力は、何物にもすぐれてかえがたいものです。

多種多様な植生、生き物の環境は、森林浴やレクリエーションの場を提供します。さらに、汚れた空気の浄化、CO₂を削減するなど生活環境を守り、世界的な環境問題の解決にも寄与します。

河川へのきれいな水は、豊富な伏流水とともに、県民・市民の飲料水を初めとする生活用水や農業、工業などの産業用水を安定的に供給し、河川や海の水生生物に良好な生息環境をもたらして、水産・漁業の振興にも役立っています。

特に、本市の場合、手取川から鶴来取水場で取水された飲料水などの生活水が、小松・加賀市を初め金沢市・口能登から七尾市の能登島まで、県内19市町のうち、何と12の市町に供給されています。森林市・白山市は、石川県民の命の源である、まさに安心・安全の水の供給源であります。

その価値については、平成13年に日本学術会議が「地球環境・人間生活に関わる農業及び森林の多面的な機能の評価について」の答申に試算されています。それによると、森林の公益的機能の貨幣換算は、全国で年間70兆2,638億円に上ります。

本県では1兆1,350億円、県民1人当たり約100万円の恩恵を森林から受けています。もとより森林の恩恵は、貨幣換算の範囲を超えており、安心・安全で快適な生活にとって、森林の存在価値はかけがえなく、はかり知れないものです。

それでは、この森林の保全・涵養の現状と対策はいかかなもののでしょうか。

近年、国・県はもとより、白山ろくにおける森林は、人工林の間伐さえ十分に行われず、放置された里山や竹林が増加し、水源の涵養、山地災害の防止、地球温暖化防止など、さまざまな森林機能力が低下しています。一たん荒廃した森林を再生するには多額の費用と長い年月が必要となることから、早急な対策の必要性が叫ばれているところです。

こうした中で石川県は、平成19年度からいしかわ森林環境税を導入し、いしかわ森林環境基金事業を実施期間を5年間として創設しました。この税は、御承知のように、県内の一定以上の収入がある住民から年額500円、法人からは資本金に応じ年額1,000円から4万円の範囲で徴収されており、税収規模は年間3億8,000万円ほどで、今年度で3年目に入ります。

税の意義は、財源の確保だけでなく、広く県民の皆さんに負担してもらうことにより、

森林の保全をみずからの生活にかかわる身近な問題としてとらえ、森林を県民共有の財産として社会全体で支えるという意識で取り組みに参加することにあります。

そこで、以下、7項目にわたって質問いたします。

さきの3月当初議会で、中西議員が森林保全について、また、今議会でも何人かの議員が自然環境保護について質問されますが、私は自然環境の保全のいろいろな可能性と課題について質問いたします。

1つ目の質問です。

いしかわ森林環境税は、角市長も積極的な提言者として導入されたものですが、導入2年目の間に本市は、いしかわ森林環境基金事業でどのようなハード事業・ソフト事業を行ったのか、その効果、また、今後の方針を伺います。

また、昨年度の基金収入は、県民の皆さんに負担していただいた3億8,000万円と国からの補助金1億円を合わせた約5億円。一方、基金支出は3億7,000万円で、本市の事業費は800万円と、全体の20%。石川県民の命の源であり、安心・安全の水の供給源である森林市・白山としては、もっと積極的に事業費を獲得すべきではないでしょうか。

また、この森林環境税の活用が、県民・市民の皆さんに余り理解されていないように思われます。今後、一層のPRが必要と同時に、将来に向け、さらなる活用・拡大・拡充を目指し、県に対し、環境税の継続を強く願うものであります。

もし、平成23年度で打ち切りするのであれば、本市としては水源税などの検討も視野に入れてはいかがでしょうか、市長のお考えを伺います。

2つ目の質問です。

里山の整備、市街地の緑化を含め、多様な自然環境の保全と創造に努めなければなりません。近年、地球温暖化の影響とも指摘されるゲリラ的な豪雨対策を視野に入れた治山治水事業も重要と考えます。本市における具体的な施策と進捗状況を伺います。

3つ目の質問です。

いしかわ森林環境基金事業は、荒廃した民有林の人工林（杉）などを整備対象にしています。しかし、今後の森林所有者の高齢化や不在地主化による森林全体の荒廃を予想すると、人工林以外の広葉樹林、雑木などの整備や林道整備、さらには森林境界の確認事業などへ対象を拡大・拡充することも必要かと考えます。この森林環境基金事業の委員でもある角市長に、このことを強く要望いたします。

4つ目の質問です。

市全土の84%を占める森林をキーワードにした新しいまちづくりは、あらゆる産業分野と教育・スポーツ・観光・医療・福祉への展開、雇用、過疎などへの打開策など新時代を切り開く総合的で構造的・戦略的な取り組みが不可欠なことは言うまでもありません。

そこで、森林環境基金事業はもとより、国・県を初め学術研究機関や先進地域、自治体、事業者などと連携して、次世代につなぐ白山森林プロジェクト構想と推進体制を構築し、地域活性化のモデル役、全国的なリード役を果たすことが肝要と考えます。市役所内にそ

の準備組織をスタートさせてはどうか、お考えをお聞きいたします。

5つ目の質問です。

4月23日の全員協議会で、平成18年から2年間の鳥越高原大日スキー場周辺の猛禽類の生息調査の報告がありました。それによると、環境省のレッドデータブック掲載の準絶滅危惧種であるハチクマなど3種の営巣、5種類の猛禽類の採餌確認がされております。これは、あくまで限られた範囲の中における調査結果ですが、白山ろく一帯ではどのような状況でしょうか。

さきにまとめた「石川県の絶滅のおそれがある野生生物～いしかわレッドデータブック～」によると、掲載動植物は864種（動物212、植物652）です。うち、白山市で確認されているのは338種（動物90、植物248）で、県全体のおよそ4割に相当しています。特に、きれいな地下水が豊富に供給される河川にしか生息しないトミヨが含まれています。トミヨは、人為的な努力がなされない限り、絶滅の危機を免れない生物種の筆頭に挙げられています。希少な動植物は、一度失われると取り戻せない貴重な財産であり、その生息環境の管理は私たちに課せられた大きな責務であります。

そこで、環境基本計画に示されている希少な野生動植物の生息・生育状況はどうなっているのか、また、その保護対策はどのように進められているのか、お尋ねいたします。

6つ目の質問です。

新学期早々の4月26日、白嶺小学校で希少動物の調査や観察を通じて、その保護につなげる「はくれい・生きものキッズ・レンジャー」が組織されています。石川県レッドデータブックで準絶滅危惧種に指定されているギフチョウ、絶滅危惧Ⅱ類のカタクリ、地元住民らが保護活動に取り組むホタルを主な対象に活動するということでもあります。

私は、こうした子供たちの身近な自然動植物の保護学習について新鮮な関心を持ったところではありますが、本市の各地域の住民や学校現場では、どのような普及・啓発・実践活動を行っているのか、市長、教育長にお聞きします。

最後になりますが、7つ目の質問です。

白山は、昭和37年（1962年）に国立公園に指定されて47年、半世紀近くたっています。白山は、観光開発などによる自然破壊が少なく、自然志向、スローライフ時代の登山対象として近年、ファンも増加傾向にあるようです。また、獅子吼・手取地域と白山一里野地域は県立自然公園に指定され、自然探勝やハイキング・ウォーキング、冬場のスキー場として活用され、親しまれてきました。

そして今、白山山地は自然のシンボルとしてのみならず、世界的な環境問題の深刻化の中で、持続的な人間生活・経済活動にとってはかり知れない影響や可能性が改めて指摘され、国・県・市民共有の財産として保存価値が見直されているわけです。

その中で、2つの県立公園については、自然公園法や県条例の規定に基づく区域指定のもとで環境保全を図っておりますが、本市にはこのほかにも多くの指定保存すべき区域があります。そこで、本市独自の自然環境保全地域の指定を検討することを提言します。

さきに触れた野生動植物についても、貴重な野生動植物種の指定と捕獲の禁止、移入種の放逐の禁止などについても検討してはどうでしょうか、見解を伺います。

以上で私の質問事項は終わりますが、最後に、今日の経済社会について考えることの一端を述べてみたいと思います。

今、百年に一度と言われる社会経済の混迷が世界を、また、日本を席卷しています。世界の社会経済の安定と健全性をリードすべきアメリカを初めとする先進諸国の強欲資本主義・金融暴走の結果と言われています。

そのアメリカのオバマは、「チェンジ・ユー・キャン」と訴えて登場しました。オバマ新大統領が標榜するアメリカ社会の大転換策は、グリーン・ニューディールであります。破綻を極めたアメリカの自動車ビッグスリーへの救済をてこに、日本のハイブリッドなど目じゃないと完全電気自動車、あるいは水素自動車へと一気に先陣をねらう勢いです。

環境問題に背を向けて、技術開発におくれをとったかに見せながら、石油・化石燃料から自然エコ・エネルギー文化へ、新たなアメリカ発世界ルールを押し立てて、新覇権を目指すのでしょうか。世界のウの目タカの目の国益は、私たち白山市の身近な森や空気、そして水さえもねらっているようにも見えるのです。

白山市の総合計画は、自然との共生により持続可能な循環型のまち・社会づくりを目指しております。ある意味では、大転換期の先を見据えた目標と言えます。たかが一自治体、されど一自治体であります。世界的な変化をも視野に、我が自然環境の保全策、活用策も模索してみたいと思うこのごろであります。

以上であります。どうもありがとうございました。